

ニュース

○国鉄に於ける新線建設

国鉄に於ける今年度新線建設は 20 億円を予定されていたが、去る 4 月 28 日開かれた鉄道建設審議会にて下記の如く決定し、運輸大臣の諮問に答申した。

1. 国鉄の建設線選定基準

- (1) 地下資源、電源、農林水産資源及び農地の開発並びに地方産業の振興等、国民経済上効果大なるものを優先考慮する。
- (2) 輸送量が多く、収支割合の良好なものを優先考慮する。
- (3) 輸送計画上の観点からみて、重要度の高いものを優先考慮する。
- (4) 特別の事情がない限り、未成線にして、経済速度をもつて比較的短期間に工事を完成し得るものを優先考慮する。

2. 27 年度公布予算を以て、直ちに着手すべき路線

- (1) 中湧網線 (中佐呂間—常呂間)
- (2) 小本線 (宇津野—浅内間)
- (3) 川口線 (会津宮下—川口間)
- (4) 白新線 (白山—新発田間)
- (5) 大糸線 (中土—小滝間)
- (6) 樽見線 (大垣—谷汲口間)
- (7) 紀勢線 (紀伊木本—尾鷲間)
- (8) 赤穂線 (播州赤穂—西大寺附近間)

- (9) 本郷線 (布一加計間)
- (10) 江川崎線 (吉野生—江川崎間)
- (11) 日田線 (大行司—彦山間)

3. 年度内予算の補正により速やかに建設に着手するを適当と認める路線

- (1) 遠羽線 (築別—遠別間)
- (2) 刃富内線 (富内—右左府間)
- (3) 根北線 (斜里—標津間)
- (4) 福山線 (渡島大沢—福山間)
- (5) 津軽線 (蟹田—三厩間)
- (6) 気仙沼線 (気仙沼—津谷間)
- (7) 野岩線 (荒海—滝原間)
- (8) 能登線 (穴水—飯田間)
- (9) 越美線 (福井—朝日間)
- (10) 阪本線 (五条—阪本間)
- (11) 三江線 (備後十日市—浜原間)
- (12) 岩日線 (岩国—広瀬間)
- (13) 宮原線 (宝泉寺—宮原間)
- (14) 内海線 (北郷—内海間)
- (15) 国分線 (国分—古江間)
- (16) 枕崎線 (山川—枕崎間)

4. 2. 及び 3. によつて着手した路線については、次年度以降経済速度をもつてその工事を継続し得るよう予算的措置を講ずべきである。

2. に於て本年度着工の決定した 11 線は、いずれも戦前工事に着手し路盤工事を完成し或いは工事中途で中止した線のみで、その延長は約 240 km である。

なお審議会では札沼、白棚、魚沼 3 営業休止線について、本年度予算の補正により営業再開出来るよう措置すべき旨、関係各大臣に建議した。

○平和大橋 (新橋) 及び西平和大橋 (新大橋) の高欄について

両橋は広島市の都心平和記念公園を挟んで南流する太田川派川元安川及び太田川本川に架設せられたものである。両橋は 100 m 道路に架設されたものでその橋長はそれぞれ 86 m, 102 m, 有効巾員は各々 15 m であつて総工費は 1 億 1000 万円、起工は昭和 25 年 11 月 2 日、竣功は昭和 27 年 3 月 31 日、工事は建設省中国四国地方建設局が行つたものである。

両橋の高欄は彫刻家イサム・ノグチ氏の構想による鉄筋コンクリート造りであり、旧来の高欄と趣を異にした形態でコンクリート打ち放しのプレキャスト及び現場打ち工法を使用している。

昭和 26 年 6 月昼夜兼行の工事現場に立つたノグ

チ氏は、「6 年前のいまわしい霧屈気が静かに横たわっている。その地上に生活する市民の顔は大きな希望に燃えてたくましい。この二つがアトム広島の様です」と語つた。このときの印象を基にして平和大橋は“建設”を西平和大橋は“平和”を表徴すべく哲学的造形感覚豊かな同氏によつて構想が練られたのである。

平和大橋は河岸から眺望すると間柱の形及びその配列が印象的で、橋を通るときは間柱は目立たず間柱の上のつた楕円形の手摺は適度に低く地覆の斜面とともに流れるが如く連らなつている。手摺は橋端に至り細まり外側上方に反り上つて、その先端は龍頭を思わせる大きな半円球となつており、とくに親柱というべきものがなくあたかも両腕を高く大空に向つて伸ばし

平和の春を思うぞんぶん満喫しようとするかのように終っている。この橋端の半円球は東天より昇る太陽を表徴したもので、太陽のごとく着実にそしてたくましく建設の歩みを続けねばならないという事を意味している。

西平和大橋の高欄は間柱龍骨の如く船に似て、その間柱を貫いて2本の円形ポールの手摺が美しく連なり橋端において袖高欄となり弧を描いておもむろに地中に没している。人の一生を航路にたとえ旅する人を間柱によつて船の姿であらわし、流れる如く美しく連なる2本の手摺を風波なく送る平和な人生航路になぞらえ、弧を描いて地中に没する橋端の袖高欄は一日のつとめを終つて夕べの雲を美しく染めて静かに西山に沈んで行く夕陽の姿をあらわしている。それは平和そのものの姿であつて人はみなその生涯を夕陽の如く平靜に終らなければならないという意味をあらわしたものである。

図-1 平和大橋高欄設計図

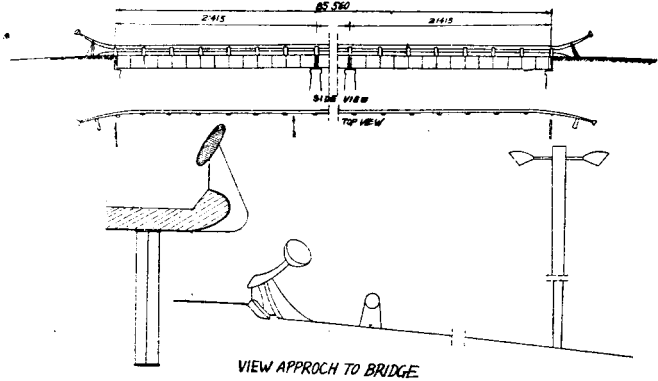


図-2 西平和大橋高欄設計図

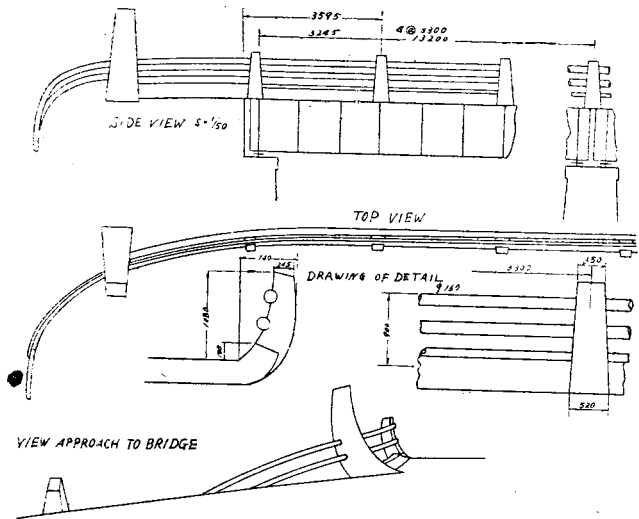
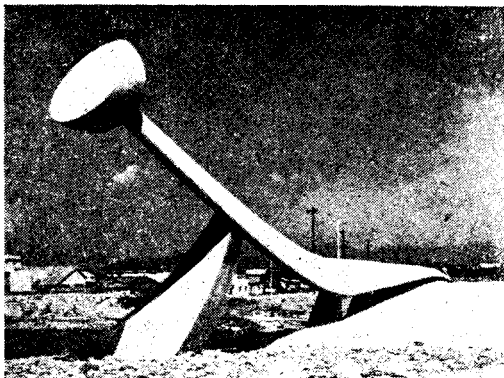
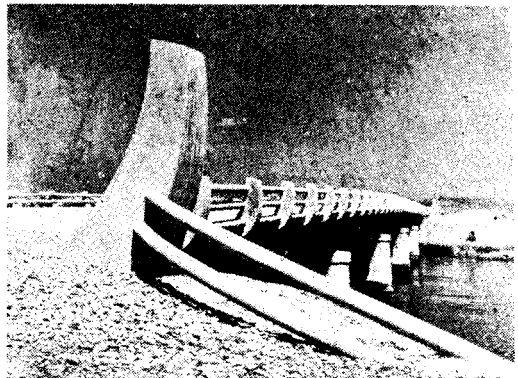


写真-1 平和大橋



(広島大学 網千寿大氏撮影)

写真-2 西平和大橋



(中国四国支部)